

第1回 八幡市総合計画検討懇談会

■日 時：令和4年8月24日（水） 14:00～15:30

■場 所：八幡市文化センター 3階 第3会議室

■出席者

【委員】

明石 礼子 委員、荒木 直人 委員、大井 健一郎 委員、河原崎 友香理 委員、佐々木 真委員、辻 弥壽彦 委員、橋本 行史 委員、山本 由紀子 委員（50音順）

【市役所】

堀口 文昭 市長

【事務局】

足立 理事兼政策推進部長、疋田 政策推進部次長、堀川 政策推進課長、岡田 政策推進課 課長補佐、林 政策推進課 係長、政策推進課 奥田

■欠席者

高橋 奈菜 委員、田中 朋清 委員

■次第

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 出席者紹介・委員委嘱
4. 会長選出
5. 懇談会の公開
6. 議事（協議・報告）
 - （1）第5次八幡市総合計画後期基本計画の策定について（資料1）
 - （2）策定スケジュールについて（資料2）
 - （3）市民アンケート調査について（資料3）
 - （4）第5次八幡市総合計画後期基本計画の序論（素案）について（資料4）
7. その他
 - （1）次回懇談会について

■配布資料

- <資料1> 第5次八幡市総合計画後期基本計画の策定について
- <資料2> 第5次八幡市総合計画後期基本計画策定スケジュール(案)
- <資料3> 第5次八幡市総合計画後期基本計画策定に係る市民アンケート調査について
- <資料4> 第5次八幡市総合計画後期基本計画序論（素案）

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 出席者紹介・委員委嘱

4. 会長選出

委員互選により会長に橋本委員を選出。会長の指名により、会長代理に辻委員を選出。

5. 懇談会の公開

懇談会の原則公開を決定。

ただし、今後議論の進展次第で支障が生じるような場合は、その都度判断したい。

傍聴希望者：なし

6. 議事（協議・報告）

【議事事項(1)～(3)】

会長：事務局のご説明では、全体（6章）を、2回に分けて検討するというところがあるが、あらかじめ案があるのであればその6章がどのような章立てになるか教えていただきたい。

事務局：6章の章立てについては原則、現在の総合計画の柱に沿って立てていくものと考えている。

1つ目は「共生の社会づくり」で、人権や障がい者のこと、地域生活における取組を入れていくことになる。2つ目は「子どもが輝く 未来のまち やわた」で、教育も含め、子育て関係の取組が入っていくことになる。3つ目は「誰もが健康で幸せな 健幸のまち やわた」で、健康づくりを中心とした施策を入れていくことになる。4つ目は「自然と歴史と文化が織りなす 観幸のまち やわた」で、観光に関するまちづくりや、八幡について知っていただくこと、市民にとってはシビックプライドの醸成といった事業が入ってくる。5つ目は「しなやかに発展する 活力のまち やわた」で、農業や商工業の振興や、都市基盤の整備というような事業が入ってくる。最後、第6章は「持続可能な 安心・安全のまち やわた」で、こちらは幅広いジャンルになるが、環境を守ること、資源循環（ごみの再利用）や、安心・安全、市の行政運営といったことが入ってくる。

なお、現時点では、章の順番通り第1～3章と第4～6章に分けたいと考えている。

会長：市長のご挨拶に「前期計画の総括をして」とあったが、前期計画の総括は第

何回でやることになるのか。

事務局： 総括については、現在庁内で取りまとめを進めているところである。第2回、第3回の懇談会で、例えば第1～3章を第2回、第4～6章を第3回でする場合、それぞれの取りまとめの内容も併せてご報告させていただく形にさせていただきたい。

会長： コロナの流行はこれまで考えていなかったことであるし、人口減少については前期計画でも考えられていたが、一向に好転しない、あるいはそれ以上に人口減少が進んでいる状況もあるので、そのようなことも勘案しながら、後期計画の策定が求められているところである。

【議事事項(4)】

会長： 前期計画の時からそうであるが、住宅都市、生活都市として発展してきた八幡は、人口10万人を目指していたが、7万人台で頭打ちし、住宅都市、生活都市としての魅力そのものは失われていないものの、京都経済圏、大阪経済圏の停滞に伴い、八幡の位置付けそのものも若干見直していく必要が生まれた。そこで前期計画では観光を中心とした産業の復興というか、その辺の見直しも含めてもう一度まちづくりを始めなければいけないというのが前期計画の大きな柱であったように思う。本日のご説明では、人口がさらに減りつつあるというところで、後期計画の策定に入ったということ。

我々委員としては市の内部で検討されていることとは別に、こういったことが欠けている、入れてほしい、見直すべきという意見があればと思う。

委員： 「ヤングケアラー」について、一般の意見として、近所の中学生の男の子が母親などの介護をやっているとしたら、中学生の子には難しいと思う。近所の方との助け合いも、信頼関係がなかったら、周りの大人にも頼らないと思う。実際にヤングケアラーの子を見たことはないが、そのような子が高校にも行かず働いて、一生を独身で過ごすような子が増えれば、人口も増えない。

例えば、テレビでも紹介されるような、親が夜遅くまで働いていて、食事ができないような時に子ども食堂みたいな感じで、ヤングケアラーに悩んでいる少年少女を助けてあげられるといいと思った。

会長： この問題は最近出てきたテーマで、まずは実態把握・調査、次に相談窓口の設置、そして具体的な支援策ということになる。今言われたのは具体的な支援策にまで踏み込めないかというお話だったと思う。そこはヤングケアラーの支援ということで、各章で再び検討させていただければと思う。

主要課題4について、前期計画でも力を入れたところであるが、観光まちづくりに関連して、SNS等を活用した観光プロモーションの強化について、「観光振興は情報発信だけではない」と最近有名な外国人の方が書いておられたが、

そういった意味では、観光資源の開発、観光の魅力の深掘りを一層進める必要があるのではないか。こんな資源があるよと SNS に載せるだけでなく、こんな隠された歴史もあるというような表現があればいい。「国宝石清水八幡宮等、地域の自然・歴史・文化的資源を活用」の「活用」のほかに、「発掘」「開発」といった言葉がほしいように思う。もっと隠されたものがあるはずなので、魅力の PR だけでなく、「魅力を高める」といった内容があれば良い。

事務局： それについては、石清水八幡宮に松花堂昭乗のお茶席であった閑雲軒という清水のような舞台があり、近畿運輸局とも再建に向けた検討をはじめるところで、市長の思いとしても閑雲軒が再現できれば良いということで、取り組みを進めている。

会長： 「茶文化をはじめとする文化の創生」とあるが、茶文化の発信をされるのであれば、「文化の創生」ではなく、今ある文化の強化というか「今ある文化を高める」という表現の方がいいのではないかと。すでにある文化を高めて、というところがあればいい。「文化力を高める」「文化の強化」といった表現があればいいと思う。

委員： 42年前の60歳以上は5%であったが今はそれが30%になっていて、生産年齢人口が減ってきているということ。いかにその年齢層を八幡に持ってくるかということ全体を考えると、これから進めていくうえでは、その辺でいかに魅力ある八幡市にしていくか、そのためには産業が重要であり、今取り組まないと実現できないので、力を入れてもらいたい。

会長： 今のご意見は主要課題5の産業の振興のところと、主要課題2のところでは若い方が集まるようなまちづくりをしていかなければいけないという話だと思う。

主要課題2には学力の向上が入っている他に妊娠・出産・子育てから仕事、障がい者、子どもの貧困、ヤングケアラーまで項目としては一応揃っている。

子育ては八幡ですが、その子どもが生産年齢人口に入ったときに市外に移るといった傾向がある。それはこの項目で扱う問題かどうか少し難しいが、生産年齢人口を八幡で確保しなければいけないというご意見だと思う。

委員： 八幡市には産婦人科が少ないと感じる。大きな病院の婦人科はあるが、個人の病院が少ない。八幡市に産婦人科を増やし、サポートを充実させると、八幡に定住してもらうことができるのではないかと。

会長： 今のご意見は主要課題2、もしくは主要課題3に関連する話であったと思う。今は感染症対策に目が行きがちであるが、医師会と協力しつつ、出産体制の支援も検討してもらいたい。また、先ほどの生産年齢人口の話については、出産と育児の問題、もしくは働き始める年齢になると市外に出て行ってしまいう仕事の問題になるが、これをまちづくりで解決するにはどうしたら良いと思うか。

- 委員 : 働ける企業を誘致するのが一番だと思う。
- 会長 : そうすると主要課題5については、農業ばかりではなく、IT など先端産業の誘致などもテーマに加えてもらいたい。創業支援など以外にも、市の事業としてどこまでできるかだが、これから成長が見込まれる産業の誘致・育成を進めてもらいたい。
- 事務局 : 現在は、具体的なテーマの1番目に書かれている新名神高速の全線開通を見据えた土地利用と産業集積の推進に力を入れているが、ご意見いただいたIT産業の誘致などについては検討できていないのが現状である。
- 会長 : 少しずつ進めることが重要である。現在の取組は、物流センターの誘致というのがイメージされるが、これも現在ニーズがある産業ではあるが。
- 委員 : 物流関係はあまり雇用を生まない。この前精華町に行ってきたが、京田辺の工業団地から南の方は開発が進んでいるが、八幡の方に戻ってくるとあまり進んでいない印象がある。
- 会長 : 農業・物流・IT など複線的に取り組みを進めてもらいたい。
- 事務局 : 八幡市は京田辺市の三分の一程度の狭い市域の中で、土地の有効活用を考えると、6次産業化のような農地の高次化を進めていかなければならない。
- 委員 : 主要課題4に SNS 等を活用した観光プロモーションとある。八幡市の Instagram もチェックしているが、松花堂などいつも同じようなところばかりではなく、もっと穴場的なところを紹介すると良いのではないか。
- 会長 : 情報発信はされているが、もっと情報の深堀をして発信してもらいたいというご意見をいただいた。
- 委員 : 男山団地は昭和47年の管理開始で約50年の築年数となり、当時の団地が新しい社会の情勢にあっていない。2013年から八幡市、京都府などとともに、将来の団地をどうしていくかという取り組みを進めているところである。UR都市機構も令和6年度から新しい中期計画に取り組む予定であり、今回の八幡市の総合計画の策定に当たり、八幡市の都市像と我々の団地再生の取組のバランスをとりながら進めなければならぬと感じている。男山団地の再生については、在住外国人の増加や新しい働き方、新しい暮らし方などを包括しながら進めていきたいと感じている。
- 会長 : 主要課題7として、男山団地との共生・再生が挙がるのかもしれないが、これまでは一般施策の中に入っていた。これをどちらで扱うかは市の方で考えてもらいたい。
- 委員 : 男山団地の再生については個別の協議体があるので、総合計画でどこまで表現するのは要検討である。
- 委員 : ベトナムなどからの在住外国人が増えている。3年ぐらいで帰るのか、永住するのか分からないという中で、どのように住民同士が支えあって生きていく

か。また、全体的に年齢層があがっている中で、民生委員・消防団員の担い手がいないというところが課題なので、こういったところにも力を入れてもらいたい。

委員： 主要課題2に書いてあるように少子高齢化が問題だが、特に高齢化が進んでいる。このような中で、働く世代が15歳から65歳でいいのか。生産年齢が変わってきている中で、高齢者へのサポートが必要なのではないか。また、高齢者が増える中で、空き家も増えている。高齢化についてもデータをもとに考える必要があるのではないか。

会長： これまで少子社会に焦点が当たっていたが、高齢化についてもデータを挙げて多角的に検討する必要があるのではないかというご意見をいただいた。

委員： 主要課題6で、地震・風水害について書かれているが、災害時に重要になるのは日ごろの地域とのつながりが大事と言われている。個々の具体的なテーマのところに書かれているが、自助・共助を踏まえた地域づくりを重要なポイントとして焦点を当てられるといいのではないか。

7. その他

会議内容については、議事録を作成し確認していただく。

次回の懇談会は、本年10月頃に開催する予定とし、別途、日程調整を行う。

以上